

| | | | | | |
|------|--------------|---|-------|----------|------|
| 科目名称 | 学科入門セミナー (A) | | 授業コード | 10719982 | |
| 担当教員 | 友定 聖雄 | 田口 史樹、さくまはな、中山 玲佳、三島 一能、森岡 希世子、戸矢崎 満雄、谷口 文保 | | | |
| 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 学習基礎 |
| 年次 | 1 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 前期 |
| 関連資格 | | | | | |

| | |
|------------------|---|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | アート・クラフト学科新入生(23A生、編転入生)のみ |
| 授業の目的と到達目標(学習成果) | ①大学や大学生活に適応し、不安を解消する。 ②学科の教員と新入生がお互いにコミュニケーションを図り、大学でなすべきことや目標について仲間と一緒に考えることができる。 |
| 授業計画の概要 | アート・クラフト学科の新入生が、大学生活を有意義に送るために、大学生活4年間の指針を見つけるプログラム。「大学のこと」「自分のこと」「友人のこと」「教員のこと」「カリキュラムのこと」「学科の施設のこと」「将来計画のこと」など、自由に意見を交わしながら理解を深める。 |
| 授業計画 | 1 学科入門セミナーの説明、カリキュラム説明、4年間の履修計画表作成(谷口、森岡) 2 4年間の履修計画提出、個人面談(谷口、森岡) 3 4年間の履修計画相談・個人面談(谷口、森岡) 4 学外演習の詳細確認、自己紹介カードの作成(谷口、森岡) 5 学外演習(展覧会見学等の日帰り旅行)(学科教員全員) 6 まとめ、個人面談(谷口、森岡) |
| 実務経験のある教員 | 担当教員全員が、美術または工芸の作家として作品の制作・発表や様々な社会活動を行っている。 |
| 授業時間外学習 | 『CAMPUS GUIDE 2023』の「履修について」、「アート・クラフト学科カリキュラムについて」の部分に目を通しておくこと。 |
| 評価方法 | セミナーでの学習態度等を評価する。 |
| 指導方法 | 授業中に個人面談。全体へのフィードバックを行う。 |
| 使用テキスト | 『CAMPUS GUIDE 2023』 |
| 参考テキスト・URL | |
| 各自準備物 | |
| 実習費 | |
| その他 | ※再履修不可科目 |

| | | | | | |
|------|---------------|------|-------|----------|----|
| 科目名称 | 彫刻基礎 | | 授業コード | 20070560 | |
| 担当教員 | 三島 一能 | | | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 実習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 1 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | 教職、インテリアプランナー | | | | |

| | |
|------------------|--|
| 授業実施方法 | 対面 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | A生限定。教室のスペースから24名に限定。2年次からフィギュア・彫刻コースを選択する学生を優先し、その他の学生は抽選。 |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 立体造形の基本的な材料である粘土の特性を理解し、モデリングによる造形表現を理解する。作品制作を通して、形、テクスチャー、色による基礎的な彫刻表現ができる。 |
| 授業計画の概要 | 滑らかな表情を持つ形のもと凸凹した表情を持つ形のものを取り上げて、対比的な2つの造形表現に取り組む。また一方は着彩も施すことで描写的な表現を学ぶ。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1：課題説明／「滑らかな表面を持つモチーフの造形」芯の制作 2：必要に応じて粘土の固さを水で調整し、芯に荒付けして乾燥させる 3：乾いた粘土の上に柔らかい粘土を盛り付け、全体的な形を成形する 4：粗目の紙やすりの研削と粘土の盛り付けによりさらに形を整える 5：中目の紙やすりでさらに形を整えながら、表面も滑らかにする 6：細目の紙やすりの研磨で表面の滑らかさを高めて光沢を出す 7：極細目の紙やすりの研磨によりさらに光沢の度合いを上げる 8：「凸凹した表面を持つモチーフの造形」モチーフをスケッチする 9：芯を制作。モチーフを観察しながらテクスチャーの試作を行う 10：モチーフを観察しながらテクスチャーの2つ目の試作を行う 11：粘土を芯に荒付けして全体的な形を成形し、乾燥させる 12：乾いた粘土の半分に柔らかい粘土をつけ、テクスチャーを造形する 13：残りの半分にも柔らかい粘土をつけ、テクスチャーを造形する 14：調色、光沢などに注意しながら着彩を施し作品を完成させる 15：作品を展示鑑賞し、個々の作品について教員から講評を受ける |
| 実務経験のある教員 | 担当教員は独自の構想で造形物を制作し、数多くの公募展、個展、グループ展等で作品を発表している。その豊富な経験を生かして、作品の構想、材料の知識と扱い方、造形表現についての具体的な教育を行っている。 |
| 授業時間外学習 | 提示する条件に沿ってモチーフを探す。粘土造形に関する書籍や資料を参照する。 |
| 評価方法 | 提出作品を80%、授業態度や課題に取り組む姿勢を20%の割合で評価する。 3分の2以上の出席を評価対象とする。 |
| 指導方法 | 作品の展示および講評 |
| 使用テキスト | |
| 参考テキスト・URL | 立体大全／（デザインの現場編集部編／美術出版社） https://www.youtube.com/watch?v=UoVGpqw_aHo |
| 各自準備物 | 汚れても良い服装、鉛筆デッサン用具、カッターナイフ、定規、コンパス、水性着彩用具、タオル |
| 実習費 | 材料費 700 円 |
| その他 | |

| | | | | | |
|------|-------|-------|----------|------|----|
| 科目名称 | 作品の見方 | 授業コード | 20070021 | | |
| 担当教員 | 谷口 文保 | | | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 1 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | 教職 | | | | |

| | |
|------------------|---|
| 授業実施方法 | 対面 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | 「その他」参照 |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 作家に必要な自己の感性についての認識を深めるために、たくさんの作品を鑑賞し、造形表現の多様性を理解し、自分にとって重要な作品や作家について論じることができるようになる。 自分にとって重要な作品や作家について説明することができる。 自分にとって重要な作品や作家を示しながら、自分自身の感性について論じることができる。 |
| 授業計画の概要 | 毎回、図書館で図録や画集を借り、図版や写真を閲覧してその中で感動した作品をスケッチし、基本データを記録する。そのようにして収集された成果は、各自の感動の記録となる。授業の最後に、自分にとって最も重要と考える作品や作家を選定し、その作品の模写とレポートを作成する。 |
| 授業計画 | 1：イントロダクション 2：作家にとっての作品鑑賞 3：専門分野の作品を見る 4：専門分野の「憧れの作品」を探す（専門分野） 5：専門分野の「印象的な作品」を探す（専門分野） 7：専門分野以外の作品を見る 8：専門分野以外の「憧れの作品」を探す 9：専門分野以外の「印象的な作品」を探す 10：「感動」した作品のまとめ 11：自分自身の感性について考える 12：最も重要な作品のレポート 13：最も重要な作品の模写（下書き、彩色） 14：最も重要な作品の模写（彩色、仕上げ） 15：まとめ |
| 実務経験のある教員 | 担当教員は美術の専門家として、作品制作や展覧会などの実務経験を有する。また、高等学校教員や大学教員、地域社会におけるアートワークショップの企画運営など、幅広い美術教育経験を有する。 |
| 授業時間外学習 | 図書館で、各自の専門にこだわらず、さまざまな分野の画集や写真集を見ておくが良い。授業後には、美術館やギャラリーに行つて実物の作品をたくさん見ると良い。その場合も、専門分野にこだわらず、様々な作品を見ること。 |
| 評価方法 | 成果物 80%、受講態度 20%の割合で評価する。 提出物を提出しなかった場合、または出席が 10 回に満たない場合は E 評価となる。 |
| 指導方法 | 最終回の授業で、提出された模写やレポートについて講評を行う。 |
| 使用テキスト | |
| 参考テキスト・URL | 辻惟雄監修「カラー版日本美術史増補新装」（美術出版社、2002） 高階秀爾監修「カラー版西洋美術史増補新装」（美術出版社、2002） |
| 各自準備物 | 筆記具。その他、必要な準備物は授業中に連絡する。 |
| 実習費 | |
| その他 | 履修に関してはアート・クラフト学科生を優先し、履修者数の制限をする場合がある。 |

| | | | | | |
|------|--------|-------|----------|------|----|
| 科目名称 | ドローイング | 授業コード | 10070171 | | |
| 担当教員 | 中山 玲佳 | さくまはな | | | |
| 単位数 | 4 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 1 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 前期 |
| 関連資格 | 教職 | | | | |

| | |
|------------------|---|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | A生限定 |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 各課題において、感性を刺激しイメージが膨らむ多様な素材に触れ、描画についての新たな技術を習得することにより、独自の表現を模索しながら作品を展開していく能力を身につける。 |
| 授業計画の概要 | この授業では「作品を制作する」為にはどこから始めるのか？という制作の導入部分を考えることが目的である。様々な素材に触れ実際に手を動かし作業していく中で見えてくるものを丁寧に観察し、独自の視点や新たな発見に気づき追及することで、作品として完成させる力をつける。また、自由制作（共同）ではディスカッションを通して意見することの重要性やお互いの理解を深めることを学び、協力しながら作品制作を行う。 |
| 授業計画 | 1：イントロダクションー概要及び授業計画、画材などの説明 2：課題1 支持体との距離を考え描くスケッチ 3：課題2 黒い紙を支持体に手を描く 4：課題3 黒い紙を支持体に風景を描く/資料準備、描写 5：課題3 黒い紙を支持体に風景を描く/作品完成 6：課題4 色や形から描くー混色体験やモダンテクニックなどによる表現 7：課題5 色や形から描くー課題4を応用し立体に描く/プランニング 8：課題5 色や形から描くー課題4を応用し立体に描く/作品完成 9：課題6 コラージュを用いた独自のイメージ表現の展開ー資料準備 10：課題6 コラージュを用いた独自のイメージ表現の展開ープランニングと構成 11：課題6 コラージュを用いた独自のイメージ表現の展開ー作品の完成 12：自由制作（グループワーク）ーテーマ設定、ディスカッション 13：自由制作（グループワーク）ー構成、制作 14：自由制作（グループワーク）ー仕上げ、完成 15：課題について各自発表とそれに対する総評およびまとめ |
| 実務経験のある教員 | 担当する教員が、美術作家として作品の制作や各種の展覧会などで発表の経験がある。 |
| 授業時間外学習 | 制作体験と材料は多い程、選択の引き出しが増えるので、自分の素材収集と描画材を気にかけて制作準備に努めること。 |
| 評価方法 | 提出作品 70%、授業態度や課題への取り組み姿勢などを 30%の割合で評価する。 |
| 指導方法 | 課題の講評 |
| 使用テキスト | 適宜資料など配布 |
| 参考テキスト・URL | 絵画表現のしくみ:技法と画材の小百科カラー版(美術出版社,2000) アイデアスケッチ:アイデアを「醸成」するためのワークショップ実践ガイド(JamesGibson[ほか]著.--ビー・エヌ・エヌ新社,2017) |
| 各自準備物 | 筆記具、デッサン用具、着彩描画材料（各自が使用したい物を用意）など |
| 実習費 | |
| その他 | |

| | | | | | |
|------|-------|--------------------|-------|----------|--------------------------|
| 科目名称 | 工芸史 | | 授業コード | 10070031 | |
| 担当教員 | 友定 聖雄 | 田口 史樹、三島 一能、森岡 希世子 | | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 科目分類 | 芸術工学基礎(2019年度以降入学生のみ)/選択 |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 前期 |
| 関連資格 | 教職 | | | | |

| | |
|------------------|---|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | |
| 授業の目的と到達目標(学習成果) | 工芸品が様々な時代にどのように変遷を遂げ現代に至ったのかを学ぶことにより、説明できる知識を身につける。 それぞれの素材において技法の発展と、表現の変化を歴史的に考察する事により、今後の研究の参考にする事が出来る。 |
| 授業計画の概要 | 様々な素材、高い技術によって表現される工芸は、他国から伝わったものも含め時代の変遷や文化、時代背景等の影響により独自に様々な発展や様式を生み、実用品から芸術品としても存在するものになっている。本講義は様々な時代にどのように変遷を遂げ現代に至ったのか顧みることにより、今後の制作に必要な知識を習得することを目的とする。 |
| 授業計画 | 1:全担当教員によるイントロダクション 2:技法からみる陶磁器史の概説(森岡) 3:技法からみるガラス史の概説(友定) 4:技法からみる金工史の概説(田口) 5:金工作品の説明と解説(田口) 6:ジュエリーから見る各様式と芸術運動(田口) 7:ガラスの歴史-I(友定) 8:ガラスの歴史-II(友定) 9:空間とガラスワーク(友定) 10:世界の工芸(三島) 11:日本陶芸の歴史(森岡) 12:生活の中の陶芸(森岡) 13:陶芸作品の説明と解説(森岡) 14:日本のジュエリー表現(三島) 15:陶磁器、ガラス、金工に関する歴史的名品の見学、調査、レポートによる報告(友定、田口、森岡、三島) |
| 実務経験のある教員 | 作家としての活動から、具体的な見地より技法、表現の歴史を講義する。 |
| 授業時間外学習 | 博物館、美術館での工芸史に残る名品を出来るだけ見に行くよう努めること。 |
| 評価方法 | 毎回の各分野別によるレポート提出とその内容(70%)及び、出席数(30%)を評価します。また出席が10回に満たない場合はE評価となる。 |
| 指導方法 | 授業アンケートのコメントフィードバック時に紹介する。 |
| 使用テキスト | 適宜印刷物を配付 |
| 参考テキスト・URL | 授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する。 |
| 各自準備物 | 筆記用具 |
| 実習費 | |
| その他 | アート・クラフト学科生において、この科目の単位修得は、専門科目「選択」(芸術工学基礎の選択必修にはできない)の扱いとなるので注意すること。 |

| | | | |
|------|-------|-------|----------|
| 科目名称 | 日本画技法 | 授業コード | 10070093 |
| 担当教員 | 三宅 良史 | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 実習 |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2023 |
| 関連資格 | | 科目分類 | 選択 |
| | | 開講学期 | 前期 |

| | |
|------------------|---|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | A生限定(定員15名)。15名を超えた場合、講義初日に抽選します。 登録名簿に名前がある学生のみ抽選ができます。 3・4年生は優先的に履修できる事もあります。 |
| 授業の目的と到達目標(学習成果) | ・日本画素材と技法の基礎知識を習得できる。 ・日本人特有の美意識(画面構成・色彩構成)を先人達は日本画でどのように表現したかを制作しながら理解できる。 ・制作を進める過程、アイデア<イメージ>→下図→本画へと、そのプロセスを覚える事によって他の作品制作に生かす事ができる。 |
| 授業計画の概要 | 日本画の伝統的な技法と「基底物(和紙&絹)」「岩絵具」「膠」それぞれの素材の扱いを学び、日本画特有の表現(線を主体とし色面と共に型を表現する)を学ぶ。現代では様々な日本画が表現されていて、油・アクリル絵、デザイン、工芸または現代美術など多種多様な要素・表現が混入しており、ジャンルとしての線引きは難しい時代となっている。しかしながらこの授業では日本画の伝統的な「花鳥風月」をテーマとしながらも前半は伝統的な「動植物・風景・人物等、身近な物」をテーマで「和紙(麻紙)」を用い岩絵具・膠に馴れてもらい、後半は「絹」を用いることで、より伝統的な素材と技法を理解しながら、現代を生きる君たちのリアリティに基づく、個性的な制作を目指す。ネット等で写真素材を入手し易い環境ではあるが、スケッチを基本とし自らのフィルターを通した事象から制作を始めてほしい。「重ねて色味を出す」感覚を是非、習得してもらいたい。絵画に関わらず、その他に応用できる。 |
| 授業計画 | 1: ドーサ(髹水)説明、ドーサ引作業和紙・岩絵具、制作手順説明・草稿(小下図)確認、本紙張込 2: 大下図制作・本紙写し(トレース)墨による骨描き〜胡粉地塗り 3: 制作(地塗り・中塗り)*大きく色面で塗り重ねる、上に塗る色を考慮して効果的な色を置く 4: 制作(上塗り)最終的な個々の固有色を塗って行く 5: 制作(仕上げ)色を塗り重ね、深みを出しながらイメージに近づける 6: 紙本を中断し、絹糸へ絵絹の張込制作概要説明草稿(小下図)湯引・髹水引 7: 草稿・大下図制作(骨描き裏彩色説明)・空き時間に「紙本制作」を同時進行する。 8: 絹本制作(胡粉地塗り)*絹本は塗り直しが出来ないのも最初からイメージに近い色を考える 9: 絹本制作(中塗り・裏彩色)*表からは固有色に近い色、裏からは表の色が効果的になる様な色を塗る 10: 絹本制作(中塗り・裏彩色)*表・裏とも塗り重ね、色の深みを出す 11: 絹本制作(上塗り)始めの小下図を基本とし全体のイメージを損なわない様、固有色を塗って行く 12: 絹本制作(上塗り)薄く塗り重ね、全体のイメージを損なわない様、塗って行く 13~14: 紙本・絹本制作(仕上げ)当初のイメージを越える様、しっかり塗り重ねて行く 15: 2つの課題制作品のプレゼンテーション・ディスカッション及び講評 |
| 実務経験のある教員 | 個展を中心とした美術作家活動(無所属) |
| 授業時間外学習 | ①前半のテーマは「動植物・風景・人物等」、スケッチ・写真資料など用意し、小下図(イメージスケッチ、どの様な絵を描こうとするか小さい設計図)を考えておく。 *注意! 小下図には必ず『色』をつける事。 ②後半のテーマは自由選択(アニメ・マンガ・ゲーム等のキャラクター系は不可) ③授業に入る前迄にどのような作品にするかアイデア(イメージスケッチ)や資料を揃える。 ④授業では自分のイメージや資料をどのように組み合わせるかを考え、制作を進める。 *この日本画制作では日本伝統の「和膠」(三千本膠)をメディウム(接 |
| 評価方法 | ○制作作品2課題(紙本及び絹本)提出。 ○制作過程(指導通り順序立てて出来ている・膠、画材の扱い)も対象とする。 ○授業最終日に行う実習制作のプレゼンテーション。 *発表前にコンセプトシートを記入して必ず出席する事。作品のプレゼンと作品提出で採点する。 最終日の「プレゼン講評」に無断欠席した場合、評価は「E」判定とします。 |
| 指導方法 | 講義中は一人々々見回って制作のアドバイスしています。学生の制作意図を尊重しています。 ◎講義最終日に講義生の前で1人ずつプレゼンを行い講評する事で課題に対するフィードバックとしています。 *絹本制作は作品終了後、枠から剥がして講師が後日「裏打ち」を行いません。 8月初旬頃、講評時のコンセプトシートにコメント付けて返却します。 |
| 使用テキスト | 講師が授業時に「制作の進め方」や「材料説明」のプリントを配布します。 制作に関係する作家の図録を参考資料として準備します。 |

| | |
|------------|---|
| 参考テキスト・URL | <p>* 絹本制作時「伊藤若冲」(動植彩絵)の画集を参考程度に見たほうが良い。 * 日本画家の画集に限らず、現代の作家・画家で自分が良いと思った物は積極的に自分の制作に取り入れても良い。 * 日本画の昔からの伝統的な岩絵具の扱いは「丹青指南」「本朝画史」等あり、いずれも国会図書館デジタルアーカイブよりPDFで見ることが可能ですが、かなり「デープ」な本で専門性が高いです。本屋にある日本画技法書等の方が分かり易いです。</p> |
| 各自準備物 | <p>?作業用のエプロンやツナギなど、汚れても大丈夫な服装(染色系の絵具は取れません) 1) 雑巾(テーブルや筆刷毛、絵皿を拭くため)は必需品。 2) 三千本膠(大学構内画材店在庫)は個人で購入(300円程度)。 3) 鉛筆やスケッチブック、色鉛筆・パステルなど、小下図(イメージスケッチ)出来る画材 ○ 筆・刷毛・筆洗・絵皿は大学にあります。 ○ 基底物の紙・絹、パネル及び絹枠は大学側が用意します。 ○ 岩絵具は大学に有るものを使用、不足分は実習費より補充します。 * 岩絵具は高価な為、制作を始めてから個人が必要な分、</p> |
| 実習費 | <p>①3000円(日本画顔料費) * 絹本裏打ち材料費(裏打ち紙と糊代)を含みます。 講義初日に集金し、講義最終日に残金ある場合、返金します。</p> |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 制作実習授業なので授業中は他人の作業の邪魔になる事はしない。個人作業の各々のペースを尊重します。 ・ 授業時間中にアトリエ内で作業をしている他人に話しかけたり、携帯ゲームやマンガを読まない。 ・ 授業時間中に食事はしない事*飲み物(水分)は適宜、摂ってください。 ・ 制作に疲れた場合の休憩等は適宜取って良い、アトリエの外で休憩して良い ・ 授業中、調べ物や作家画集を参考する為に図書館に行っても良い ・ 日本画制作では作業始めに「待つ」(ドーサや絵具の乾き待ち)ことが多いので時間を有効に使う、(乾く間に小下図・大下図を描き進める、制作の工程を考える等)また、他の授業の制作はしない事。 |

| | | | |
|------|---------|-------|----------|
| 科目名称 | フィギュア技法 | 授業コード | 10070570 |
| 担当教員 | 速水 仁司 | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 実習 |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2023 |
| 関連資格 | | 科目分類 | 選択 |
| | | 開講学期 | 前期 |

| | |
|------------------|---|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | A生限定、「その他」参照 |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | フィギュアなどの造形に習熟する。 |
| 授業計画の概要 | フィギュアや人形制作の代表的な材料である石塑粘土などによる造形技法を習得する。オリジナルキャラクターのデザインから造形、彩色までのプロセスを通して、アニメフィギュアによく見られる“デフォルメされた模型的立体的表現”を学習する。また観賞用固定フィギュアとしてのポージング、人物の演技設定により、絵画的な演出とは異なる立体的な感情・状況表現の方法を身につける。 |
| 授業計画 | 1:イントロダクション（作品紹介／オリジナルキャラクターのデザイン） 2:キャラクターフィギュア制作（キャラクターのデザイン・演技表現） 3:キャラクターフィギュア制作（芯材の制作とポージング・演技表現） 4:キャラクターフィギュア制作（部品分割の設定・小道具の製作） 5:キャラクターフィギュア制作（小道具の製作・塗装） 6:キャラクターフィギュア制作（小道具の塗装・講評会） 7:キャラクターフィギュア制作（身体各部のポリウム調整、質感表現） 8:キャラクターフィギュア制作（プロポーション、バランスの調整） 9:キャラクターフィギュア制作（身体各部のポリウム調整、質感表現） 10:キャラクターフィギュア制作（生物的表現と機械的表現の使い分け） 11:キャラクターフィギュア制作（表面ディテール、仕上げ） 12:キャラクターフィギュア制作（表面ディテール、仕上げ） 13:キャラクターフィギュア制作（仕上げ、彩色） 14:キャラクターフィギュア制作（仕上げ、彩色） 15:講評会／作品展示 |
| 実務経験のある教員 | 模型・フィギュア作家 |
| 授業時間外学習 | 各自の作品プランに関係する資料を集め、実作業中に参考として見ることが出来るようにコピーや写真などの状態で用意しておく。 |
| 評価方法 | 課題作品で評価する。 |
| 指導方法 | 作品の展示および講評 |
| 使用テキスト | 適宜配布する。 |
| 参考テキスト・URL | |
| 各自準備物 | アトナイフ（必須。初回に説明）、スパチュラ（細工用粘土べら）、耐水ペーパー（＃100、＃240）、着彩用画材（ガッシュ等、水生アクリル塗料・他） |
| 実習費 | 材料費 2,000 円程度 |
| その他 | 指導の都合上、定員は 20 名。優先順位は①フィギュア・彫刻コース②美術領域③クラフト領域とする。 |

| | | | | | |
|------|---------|------|-------|----------|----|
| 科目名称 | 美術工芸教育論 | | 授業コード | 20070041 | |
| 担当教員 | さくまはな | | | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | 教職 | | | | |

| | |
|------------------|--|
| 授業実施方法 | 対面 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | 特になし |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 美術工芸に関する学びの場について論じることができる能力を身につけるために、美術・工芸の歴史を踏まえつつ学校教育や社会教育を多角的に捉える能力を身につける。 到達目標は、絵画、彫刻、陶磁器、ガラス、木工など各領域の成り立ちや伝統・継承・技法など基本的な知識を身につけ、様々な事例や取り組みの考察を重ねていくことで美術・工芸と教育の関係について関連付けることができるようになる。また、その可能性と課題について理解し、説明できるようになることである。 |
| 授業計画の概要 | 美術、工芸及びデザインの理論や歴史的背景に関する知識を身につけ、国内外の事例、工芸品、美術作品を考察し、現代社会における新たな美術工芸教育のあり方を考える。 まず、工芸や美術の各領域における先駆的なアーティスト・工芸家・指導者・デザイナーの諸活動・作品を取り上げ、その歴史や理論を学ぶ。次に、幼児教育、学校教育の歴史や理念について基礎的な知識を身につけ、社会教育における美術・工芸教育について、美術館における教育普及活動・アート系 NPO などによる社会的活動について、複数の事例を取り上げ考察する。また、国内、海外の実践的な事例を紹介し、美術・工芸と教育の可能性と課題について理解を深める。 |
| 授業計画 | 1：美術工芸教育論の概要 学校教育や社会教育における美術・工芸の役割と可能性 2：美術工芸教育 工芸の歴史（日本）工芸の歴史的背景・事例紹介、時代とともに変化する工芸 3：美術工芸教育 工芸の歴史（世界）工芸の歴史的背景、工芸技術の発達・伝播、工芸の事例紹介 4：美術工芸教育目的（伝統・継承）伝統的工芸と近代化、伝統工芸の再評価、ものづくりの場 5：美術工芸教育目的（技法・素材・制作方法）工芸技法の種類、制作過程、素材と表現 6：美術工芸教育 美術の歴史（日本）美術の歴史的背景、近代の日本における美術 7：美術工芸教育 美術の歴史（世界）美術の歴史的背景と理論、美術作品の事例紹介 8：美術工芸教育 美術の歴史（美術館・博物館）美術館の役割、鑑賞、アートマネジメント 9：美術工芸教育事例（アート・社会・福祉・教育）福祉とアート、地域創生、アートプロジェクト 10：美術工芸教育の国際比較 国内外におけるものづくり教育の事例紹介 11：美術と教育の新たな可能性事例（学習の場）美術教育の歴史的背景、学習の場の創出 12：美術と教育の新たな可能性事例（幼児教育）幼児教育におけるものづくり体験、ワークショップの可能性 13：美術と教育の新たな可能性（教材の事例）参考作品の鑑賞とワークシートを使ったセッション 14：美術と教育の新たな可能性（教材の開発）ワークシートを使ったセッション・フィードバック 15：各自が制作した教材を用いたプレゼンテーション・フィードバック |
| 実務経験のある教員 | 本授業を担当するさくまはなは、日本・イギリスでの美術家としての活動の経験、また、日本・アジア各地での現地調査（染織・文様）の経験を有することから、本授業ではそれらの経験を踏まえた理論や事例紹介を取り入れる。 |
| 授業時間外学習 | 美術や工芸に関連する文献、さらに、自分の興味のある作家や作品などについて普段から調べ、関連書籍などを手にとる習慣をつける。また、各授業後には、講義内容の理解を深めるために当日の概要・ポイント・感想などを書き出し復習すること。 |
| 評価方法 | 課題への取り組み 70%、提出物 30%の割合で評価する。 課題に対する理解度（課題の理解と理論の組み立てる力）、発想力（自分の視点でアイデアをみつけ、まとめる力）、作品の完成度、口頭発表（プレゼン力、コミュニケーション能力）、受講成果（課題への取り組みの積極性）を評価する。（評価基準） |
| 指導方法 | 授業後に必要に応じて講義ノートを回収し、添削とフィードバックコメントを記載し返却する。課題については、準備段階から順次、個別指導を行い、15 回目の授業では講評を行う。授業アンケートのコメントフィードバック時に全体講評を行う。 |
| 使用テキスト | 適宜資料等を配付する |
| 参考テキスト・URL | |
| 各自準備物 | |
| 実習費 | |
| その他 | |

| | | | | | |
|------|-------------|------|------|-------|----------|
| 科目名称 | 模型・フィギュア造形論 | | | 授業コード | 20070072 |
| 担当教員 | 速水 仁司 | | | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | | | | | |

| | |
|------------------|--|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | A生限定 |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 模型・フィギュアに関する理解を深め、その造形手段を通じて独自の表現方法を養う。 |
| 授業計画の概要 | <p>模型・フィギュアは、現代の日本文化における造形表現を考える上で重要な分野である。それらを学ぶには、その材料や製造技術、その造形表現の変遷や玩具産業の歴史など、多角的な視点が必要となる。</p> <p>この授業では、主に戦後の模型・フィギュアの変遷とその魅力について論じる。まず、プラモデルなどの玩具産業の成立と展開について振り返り、ガレージキットや食玩フィギュアの発生に至る経緯について解説。次に、現代の先端的表現について、その造形的特長や製造技術について学ぶ。</p> |
| 授業計画 | <p>1：ガイダンス。当授業におけるフィギュアの定義など今後の説明</p> <p>2：模型・フィギュア概論-歴史1</p> <p>3：模型・フィギュア概論-歴史2</p> <p>4：模型・フィギュア概論-歴史3</p> <p>5：模型・フィギュア概論-歴史4</p> <p>6：キャラクター造形-1</p> <p>7：キャラクター造形-2</p> <p>8：キャラクター造形-3</p> <p>9：原型師という職業</p> <p>10：造形材料、マテリアル</p> <p>11：造形材料、マテリアル</p> <p>12：フィギュア、模型的彩色</p> <p>13：フィギュア、模型的発想・1</p> <p>14：フィギュア、模型的発想・2</p> <p>15：総括</p> |
| 実務経験のある教員 | 模型・フィギュア作家 |
| 授業時間外学習 | 市販のフィギュア、ミニチュア、玩具等を、実際に製作する前提で観察しておく。 |
| 評価方法 | 授業で提出する小レポートによる授業理解度（70%）と授業態度（30%）を総合評価する。この場合の授業態度とは実際の授業中の態度（居眠り、騒がしい等の迷惑行為の有無）も含まれますが、レポート内容に授業理解度とは別に授業内容に向き合う姿勢が反映されているかも評価対象となる事を指します。 |
| 指導方法 | 模型、フィギュアに関する写真やイラスト等の資料をスライドで紹介しつつ解説を加える。また歴史的な背景も資料写真や動画解説、また講師本人の体験を交えて詳細に説明します。模型、フィギュアの製作に関する質問は授業中随時応答も可能です。 |
| 使用テキスト | テキストは使用しない。参考資料等は適宜指示する。 |
| 参考テキスト・URL | |
| 各自準備物 | |
| 実習費 | |
| その他 | 10回以上の出席を評価対象とする。 |

| | | | | | |
|------|---------|------|------|-------|----------|
| 科目名称 | フィギュア表現 | | | 授業コード | 20070591 |
| 担当教員 | 小川 クロ | | | | |
| 単位数 | 4 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | | | | | |

| | |
|-------------------|---|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | A生限定/上限 20 名 「その他」参照 |
| 授業の目的と到達目標 (学習成果) | 人体の造形力を高める。新しい材料や造形技術を体験し知識と表現力を身につける。 |
| 授業計画の概要 | 人体をモチーフとした造形表現の学習を目的とし、オリジナルの人物像を構想し球体関節人形を制作する。また人体をモチーフにするにあたって、表情や肉感など細部のイメージまでしっかりと造形する。各部の表現によりふさわしい材料選択を積極的にすすめ、異素材を組み込むことや球体関節を用いて関節を動かす仕組みを取り入れるなど新たな技法の習得を目指す。 |
| 授業計画 | 1：イントロダクション [作品紹介] 2：既存作品からの構想 [イメージスケッチ] 3：オリジナル作品の制作 [芯の制作] 4：オリジナル作品の制作 [全身像の把握] 5：オリジナル作品の制作 [粘土での造形] 6：オリジナル作品の制作 [頭・体の制作] 7：オリジナル作品の制作 [腕・脚の制作] 8：オリジナル作品の制作 [手・足の制作] 9：オリジナル作品の制作 [関節球の制作] 10：オリジナル作品の制作 [関節球を付ける] 11：オリジナル作品の制作 [関節受けの調整] 12：オリジナル作品の制作 [パーツの組み上げ] 13：オリジナル作品の制作 [細部の修正] 14：オリジナル作品の制作 [仕上げ] 15：講評・作品展示 |
| 実務経験のある教員 | 人形作家としての経験を活かし、人体をモチーフとする立体作品における造形の指導を行う。 |
| 授業時間外学習 | 各自作品を構想し、スケッチをしておくこと。またそのために参考となる既存作品の資料収集。授業後も次回の作業へスムーズに移行するため復習及び作業を進めておく。 |
| 評価方法 | 10 回以上の出席と、すべての課題作品の提出で総合評価する。 |
| 指導方法 | 作品の展示および講評 |
| 使用テキスト | |
| 参考テキスト・URL | アルディス・ザリンス、サンディス・コンドラッツ『スカルプターのための美術解剖学』ボーンデジタル、2016年 |
| 各自準備物 | アートナイフ、スパチュラ、彫刻刀、ヤスリ、ピンバイスなど造形用具。その他制作に必要な素材は適宜指示。 |
| 実習費 | 1,000 円程度 |
| その他 | フィギュア・彫刻コースの学生を優先とし、その他の学生は抽選で決定。 |

| | | | | | |
|------|--------|-------|----------|------|----|
| 科目名称 | 版画表現 | 授業コード | 20070122 | | |
| 担当教員 | 吉田 真紀子 | | | | |
| 単位数 | 4 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | 教職 | | | | |

| | |
|------------------|--|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | A生（美術領域）限定、「その他」参照 |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 版を使う歴史は古く、基本となる4つの技術がある。なかから、凸版の「木口木版」「リノカット」、凹版の「メゾチント」「ドライポイント」の技法による作品を制作する。版を使い間接的に表現することで、直接に絵筆などを使う絵画とは違う特性に気づくことが目的である。版画の基本的な技術を学び、「版」という媒体を通じての表現方法を習得する。時間をかけ専門的な知識、技術、表現力を身につける。 |
| 授業計画の概要 | 授業は各課題ごとにプリントと参考作品を使って、版の特性や道具の使い方、印刷方法などを説明しながら進めていく。最終日には版画特有のサインの仕方や額装について説明し、額装した作品で学内展示を行う。 |
| 授業計画 | 1：ガイダンス（版画について）、凹版1（メゾチント）説明・準備・下絵制作 2：凹版1（メゾチント）製版・印刷（試し刷り） 3：凹版1（メゾチント）製版（修整）・印刷（本刷り） 4：凸版1（木口木版）説明・準備 5：凸版1（木口木版）下絵制作・転写 6：凸版1（木口木版）製版・印刷（試し刷り） 7：凸版1（木口木版）製版（修整）・印刷（本刷り） 8：凸版2（リノカット）説明・下絵制作 9：凸版2（リノカット）転写・1色目製版 10：凸版2（リノカット）1色目印刷・2色目製版 11：凸版2（リノカット）2色目印刷 12：凹版2（ドライポイント）説明・下絵制作・製版 13：凹版2（ドライポイント）印刷（試し刷り）・製版（修整）・印刷（本刷り） 14：展示会準備・額装 15：合評・展示会 |
| 実務経験のある教員 | 銅版画作家としての活動の経験から、版画の技法および版画特有のサインの仕方や販売方法、展示会の際の額装や展示方法を指導する。 |
| 授業時間外学習 | 日常的にギャラリーなどで多くの作品にふれる様心掛けること。 |
| 評価方法 | 4課題それぞれの技法の理解と習得がなされているかと表現に独自の工夫が見られ丁寧に作業されているかを総合的に評価する。 |
| 指導方法 | 最終日の展示会の作品搬入後、展示作品を含む全課題作品4点の講評を行う。 |
| 使用テキスト | プリントにて代行 |
| 参考テキスト・URL | 参考となる展示会の図録などを課題に応じて提示する。 |
| 各自準備物 | 随時、授業内に次回分の準備物を指示する。 |
| 実習費 | 版材、版画紙、展示会用のマット代を実習費として6,000円徴収する。 |
| その他 | 定員は15名 |

| | | | | | |
|------|-------|-------|----------|------|----|
| 科目名称 | 宝飾表現 | 授業コード | 20070482 | | |
| 担当教員 | 小嶋 崇嗣 | | | | |
| 単位数 | 4 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | 無し | | | | |

| | |
|------------------|--|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | 無し |
| 履修制限等 | A生（クラフト領域）限定 履修人数が多い場合はジュエリー・メタルワークコースの学生を優先します。 |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 基本的な石の知識、石留め技法、デザインを学びながら各自の個性を表現したジュエリーを制作する。 |
| 授業計画の概要 | 金属工芸におけるジュエリー表現の中でも宝石や貴金属を使用する表現は普遍的で主流であり、多くの手法と高度な技術や知識が必要である。宝石の種類、グレード、カット、特性や扱い方など基本的な知識から石をセッティングする技法（石留め）の種類とそれを固定する構造の理論を学び、デザイナーや職人として実践的に必要な知識と加工法を習得すると共にジュエリー作家としての造形力を身につける。 |
| 授業計画 | 1：イントロダクション 実習で学ぶ様々な技法の概要・課題説明石の基本的な知識説明 実習内容の技術を組み合わせた作品等の紹介 2：石留め技法フクリン留／実習制作・デザイン 3：フクリン留／実習制作 4：フクリン留／実習制作 5：フクリン留／実習制作 6：フクリン留／実習制作・仕上げ 7：石留め技法ツメ留／実習制作・デザイン 8：ツメ留／実習制作 9：ツメ留／実習制作 10：ツメ留／実習制作 11：ツメ留／実習制作・仕上げ 12：実習制作石留め技法の応用／実習制作・デザイン 13：実習制作石留め技法の応用／実習制作 14：実習制作石留め技法の応用／実習制作 15：講評 ※1-15 担当：小嶋 |
| 実務経験のある教員 | 2010年から本校で非常勤講師を務める。 国内外のギャラリー、美術館を中心に作品を発表。 基礎を学びながらも意識を高くもち、卒業後プロとして活躍できる人材が育つように心がけています。 |
| 授業時間外学習 | 本などを参考に、石を使った様々なジュエリーを見ておいてください。 各課題に対してジュエリーのデザインを考えて下さい。 |
| 評価方法 | 作品評価 80%、授業態度 20%の割合で評価する。 課題未提出、又は出席日数が 10 回に満たない場合は E 評価とする。 |
| 指導方法 | 技術的な指導に関しては、実際に作り方を見て手を動かして学んでもらいます。 最終的には全ての工程を各自で完成させることができる技術を身につけていただきます。 |
| 使用テキスト | 特になし。 |
| 参考テキスト・URL | 必要に応じて配布する。 |
| 各自準備物 | 実習で使用する材料、道具、スケッチブック等。 |
| 実習費 | 材料費は各自の制作作品に応じて負担する。 |
| その他 | 課題が授業中に終わらない場合は、授業時間外に自主制作を行ってまいります。 |

| | | | | | |
|------|---------|------|------|-------|----------|
| 科目名称 | 吹きガラス表現 | | | 授業コード | 20070472 |
| 担当教員 | 細井 基夫 | | | | |
| 単位数 | 4 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | | | | | |

| | |
|------------------|---|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | A生（クラフト領域）限定、「その他」参照 機材の都合上 10 名以内 |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 目的、ガラス素材の溶解設備を使用し、作品を通じて自己表現する。 到達目標、吹きガラス技法を学び、器を基本とした造形表現の基礎を習得出来る。 自由なデザイン表現から造形表現出来る技術を習得出来る。 講評を通して学生同士お互いに評価する事を学ぶ |
| 授業計画の概要 | テーマに沿って基礎的な器の制作からより高度な技法を学び、自由なデザイン表現が出来る様技術を習得する。 又、キルンワーク、サンドブラスト加工、研磨加工など他の技法と組み合わせる事で造形的な可能性が広がる。 ガラスを専攻する学生以外もサブの実習授業として選択できる。 作品講評では各自が自由制作した作品をプレゼンテーションしてもらい、生徒同士質問に答えるなどのディスカッションを行う。その後生徒全員が審査員となり、投票を行う。人の作品をよく見て理解し何らかの判断を下す事を学ぶ。投票結果は参考にするが、直接成績に影響する事は無い。 |
| 授業計画 | 前半と後半に分けて、実習室で下記の課題を行う者と研磨加工などの自習をする物と交互に行う。 1：イントロダクション、デモンストレーション、道具の使い方 2：宙吹き技法（基本技術の習得）コップ 3：宙吹き技法（基本技術の習得）長コップ 4：宙吹き技法（基本技術の習得）皿 5：宙吹き技法（基本技術の習得）花瓶 6：宙吹き技法（表面装飾）たねつけ 7：宙吹き技法（表面装飾）高台 8：宙吹き技法（着色技術の習得）フリット 9：宙吹き技法（着色技術の習得）巻き 10：宙吹き技法（着色技術の習得）ロッド 11：宙吹き技法（自由制作）デザインスケッチ 12：宙吹き技法（自由制作） 13：宙吹き技法（自由制作） 14：宙吹き技法（自由制作） 15：作品講評（審査会） |
| 実務経験のある教員 | 吹きガラス技法を中心とした作品の百貨店美術画廊での個展、企業デザイン室からの試作依頼、アンティークガラスの復元、美術工芸展の審査員などの実務経験を活かし、吹きガラス技法の基礎から造形表現とデザイン指導を行う。 又、自営する工房で吹きガラス講座を開講している経験を活かし、初心者にも分かりやすい授業を心掛ける。 |
| 授業時間外学習 | 美術館やギャラリーなどで吹きガラスの作品を見てその造形の特徴をとらえておく。 |
| 評価方法 | 作品評価 40%（技術・デザイン）。授業各回の課題制作過程 60%、設備を使用しての制作自習も評価する（欠席した場合授業各回の課題制作過程を補う）。 |
| 指導方法 | 課題を図説にて説明した後、実技デモンストレーション 生徒による課題実習中に個別指導。 進行状況に応じて安全面、技術面の指導をする。 |
| 使用テキスト | |
| 参考テキスト・URL | 吹きガラステキスト （東京ガラス工芸研究所監修） |
| 各自準備物 | 作業服、長袖長ズボン丈夫な靴。滑り止め付きの軍手、マスク（高温作業が伴う為、保護出来る物） |
| 実習費 | 着色用色ガラス代など。（作品一つ当たり平均 50 円） |
| その他 | |

| | | | | | |
|------|--------|--------|----------|------|----|
| 科目名称 | 陶表現 | 授業コード | 20070462 | | |
| 担当教員 | 井掛 紗百合 | 杉本 ひとみ | | | |
| 単位数 | 4 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | | | | | |

| | |
|------------------|--|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | 定員 10 名（ガラス陶芸コース） 定員を超えた場合、陶芸選択者優先 |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 手びねり、鑄込み技法の習得。 |
| 授業計画の概要 | 授業前半は手びねり技法、後半に鑄込み技法を習得をする。 さらに陶による自己表現の可能性を探るため、アイデアの発展を促すよう発表と意見交換を繰り返し、より良い制作の過程を見つけ、作品に結び付ける。 |
| 授業計画 | 1回 インTRODクシヨン/第1課題 手びねり技法/アイデアの収集 2回 面談、スケッチ、マケット制作 3回 成形 4回 成形 5回 成形 6回 成形～素焼き 7回 インTRODクシヨン/第2課題 鑄込み技法/鑄込み型成形 8回 鑄込み型 成形 9回 成形 10回 成形 11回 成形 12回 成形～素焼き 13回 加飾 釉薬掛け～本焼き 14回 加飾 釉薬掛け～本焼き 15回 全体講評 |
| 実務経験のある教員 | |
| 授業時間外学習 | 授業時間以外でも制作し、より完成度の高い作品づくりを心掛ける。 |
| 評価方法 | 技法の習得と理解・完成度40% 課題の意図を理解し自らの思想を反映できたか・独創性35% 授業態度25%（課題未提出、又は出席回数10回に満たない場合はE評価となる） |
| 指導方法 | デモンストレーションで概要を理解した後、実践を通して必要な知識や技術を習得していく。 |
| 使用テキスト | 適時指示する |
| 参考テキスト・URL | |
| 各自準備物 | スケッチブック（A4以上） |
| 実習費 | |
| その他 | |

| | | | | | |
|------|---------|------|------|-------|----------|
| 科目名称 | ジュエリー技法 | | | 授業コード | 10070790 |
| 担当教員 | 三島 一能 | | | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 3 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 前期 |
| 関連資格 | | | | | |

| | |
|------------------|--|
| 授業実施方法 | 対面 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | A生限定。教室のスペースから12名に限定。3年次からジュエリー・メタルワークコースを選択する学生を優先し、その他の学生は抽選。 |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 一般的なジュエリーにおいて身に付けるという機能は必要不可欠であり、機能を果たす為にある「金具」はジュエリーをデザインするにあたりとても重要な要素である。 金属に限らずあらゆる素材を使用したものでも人とを繋ぐしっかりとした金具があることで立派なジュエリーとして成り立たせることができると言える。 本授業では金具の作り方を中心に金属の特性を学びながら、身にけるということについてより深く考察することによって表現の幅を広げ、国内外での様々な発表の場に耐え得るハイレベルな作品を制作するためのスキルを身に付けることを目標とする。 |
| 授業計画の概要 | ジュエリーの様々なアイテムに使われる既製の金具の利用・応用と共に、一から自作する金具の仕組みや制作方法を金属の特性を踏まえ習得する。 |
| 授業計画 | 1：イントロダクション・課題説明／金具〔種類、仕組み、考え方を説明〕 2：デザイン〔タイクリップ〕／金具の考え方について、実在加工を行いながらデザイン 3：デザイン・制作〔タイクリップ〕／地金加工〔切削、曲げ加工〕 4：制作〔タイクリップ〕／地金加工〔切削、曲げ加工〕 5：制作〔タイクリップ〕／地金加工〔切削、曲げ加工〕 6：制作〔タイクリップ〕／仕上げ〔研磨、表面処理・加飾〕 7：デザイン〔ブローチ1〕／課題説明、参考作品等を参照しながらデザイン 8：デザイン・制作〔ブローチ1〕／デザイン、素材加工、地金加工〔切削、成形〕 9：デザイン・制作〔ブローチ1〕／デザイン、素材加工、地金加工〔切削、成形〕 10：制作〔ブローチ1〕／素材加工、地金加工〔切削、成形〕 11：制作〔ブローチ1〕／素材加工、地金加工〔切削、成形〕 12：制作〔ブローチ1〕／素材加工、地金加工〔切削、成形〕 13：制作〔ブローチ1〕／仕上げ〔研磨、表面処理・加飾〕 14：制作〔ブローチ1〕／仕上げ〔研磨、表面処理・加飾〕 15：講評 |
| 実務経験のある教員 | 公募展や展覧会・販売会等での作家としての経験を活かし、より実践的な技術指導を行います。 |
| 授業時間外学習 | 各自計画的に制作を行い、参考資料などを目にしておくこと。 |
| 評価方法 | 作品評価80%、授業態度20%の割合で評価。 課題未提出、又は出席日数が10回に満たない場合はE評価となる。 |
| 指導方法 | 授業最終日に講評 |
| 使用テキスト | 印刷物を配布 |
| 参考テキスト・URL | 印刷物を作成 |
| 各自準備物 | 作業着、エスキース帳、筆記用具 |
| 実習費 | 金属材料、作品に必要な材料費を一部自己負担 |
| その他 | |

| | | | | | |
|------|-----------|------|------|-------|----------|
| 科目名称 | ステンドグラス演習 | | | 授業コード | 10070760 |
| 担当教員 | 友定 聖雄 | | | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 3 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 前期 |
| 関連資格 | 教職 | | | | |

| | |
|-------------------|--|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | アート・クラフト学科生のみ受講可能 12名を超える場合はクラフト領域優先 |
| 授業の目的と到達目標 (学習成果) | ステンドグラスの総合的な理解と、知識を得る。また技術面では幅広く基礎的な技術の習得ができる。この授業を通し、基礎的なステンドグラス制作が可能となる。 |
| 授業計画の概要 | ステンドグラスの歴史、材料、技法、デザインテクニック、プレゼンテーションテクニック、工場の造り方と運営などを総合的に学びます。課題で「アメリカンスタイル」、「ヨーロッパアンスタイル」の基礎的なパネル制作から、絵付け技法によるパネル作品の制作、実際の建物で想定された空間での実施調査からステンドグラスのデザインプレゼンテーションなど、基本からより高度なものへと学ぶ。 |
| 授業計画 | 1：イントロダクション 2：ステンドグラスの歴史、及び材料について 3：ステンドグラスの作品例（建築における施工例） 4：ステンドグラスのデザインとプレゼンテーションテクニック 5：想定された建築物の調査とステンドグラスデザイン 6：アメリカンスタイルでの制作（デザイン）課題1 7：アメリカンスタイルでの制作（デザインの拡大と型紙作り）課題1 8：アメリカンスタイルでの制作（ガラスカット）課題1 9：アメリカンスタイルでの制作（組み上げ作業）課題1 10：アメリカンスタイルでの制作（仕上げ作業）課題1 11：アメリカンスタイルでの制作（デザイン）課題2 12：アメリカンスタイルでの制作（ガラスカット）課題2 13：アメリカンスタイルでの制作（半田付け）課題2 14：アメリカンスタイルでの制作（仕上げ作業）課題2 15：作品講評 課題1、2 |
| 実務経験のある教員 | 作家として、あるいは工房経営者としての経験をいかし、より実践的な制作活動を指導する。 |
| 授業時間外学習 | ステンドグラスの作品集などを見て、デザインの特徴などを理解しておくこと。 |
| 評価方法 | 講義時にはレポートの提出(20%)、また課題作品2点(80%)の評価を含め、合計点で評価する。 |
| 指導方法 | 講評会を開催する。 |
| 使用テキスト | オリジナルテキストの配布 |
| 参考テキスト・URL | |
| 各自準備物 | 授業内容により随時指導する。 |
| 実習費 | 制作するものにより個別に購入する。 |
| その他 | |

| | | | |
|------|--------|-------|----------|
| 科目名称 | 釉薬技法演習 | 授業コード | 10070291 |
| 担当教員 | 森岡 希世子 | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 |
| 年次 | 3 | 開講年度 | 2023 |
| 関連資格 | 教職 | 科目分類 | 選択 |
| | | 開講学期 | 前期 |

| | |
|------------------|---|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | |
| 授業の目的と到達目標（学習成果） | 陶芸分野での加飾技法である釉薬・下絵付け・上絵付に関する理論と技法を学ぶ。 また、様々な焼成技術により釉薬・絵具の科学的な変化を実習を通じて経験し、知識を広げることで作品に応用できる能力を身に付ける。 |
| 授業計画の概要 | テストピース制作・焼成実験を通じて釉薬の種類と科学的構造、焼成による変化を考察し、釉薬についての知識を広げる。 実験結果から導き出した、各自のテーマにもとづいて作品制作と独自の釉薬・絵具の研究を行う。 最後に、作品制作を実践しながら、釉薬掛け・下絵付け・上絵付の基礎技法を習得し、自己の表現方法の可能性を広げる。 |
| 授業計画 | 1：イントロダクション 2：釉薬の種類を考察 3：テストピース制作 4：釉薬の調合・焼成説明 5：実用陶器のデザイン考察 6：実用陶器の基礎演習 1 7：実用陶器の基礎演習 2 8：下絵付け・上絵付説明 9：下絵付け演習 10：釉薬掛け演習 11：実用陶器の応用演習 1 12：実用陶器の応用演習 2 13：テストピース制作 14：上絵付演習 15：全体講評 |
| 実務経験のある教員 | 陶芸の窯元での成形部門で業務していた経験を活かし、轆轤成形の基本的な知識と手法等について具体的に講義する |
| 授業時間外学習 | 博物館、美術館での陶芸に関する名品をできるだけ見に行くよう努めること。 |
| 評価方法 | 作品評価 70%、授業評価 30%の割合で評価。課題提出、又は出席日数が 10 回に満たない場合は E 評価となる。 |
| 指導方法 | 全体講評の授業で全員の課題作品について教員が講評を行う。 |
| 使用テキスト | 便宜、釉薬に関する印刷物を配布 |
| 参考テキスト・URL | 授業の中で参考資料を必要に応じて紹介する。 |
| 各自準備物 | 作業着、筆記用具、スケッチブック |
| 実習費 | |
| その他 | ガラス・陶芸コースの学生は履修することが望ましい。 |

| | | | | | |
|------|--------|------|-------|----------|----|
| 科目名称 | 金属造形演習 | | 授業コード | 10070770 | |
| 担当教員 | 田口 史樹 | | | | |
| 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 3 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 前期 |
| 関連資格 | 教職 | | | | |

| | |
|-------------------|--|
| 授業実施方法 | 対面 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | 金属加工経験者限定 |
| 授業の目的と到達目標 (学習成果) | 金属を素材とするジュエリー作品制作に関して、様々な表現・表面処理加工がある中から伝統技法に欠かせない七宝技法を習得することで、知識及び作業工程を理解すると共に素材への可能性を探り、作品への応用、展開する造形力を身につける事を目標とする。 |
| 授業計画の概要 | ジュエリーの表現フィールドは様々な技法や表現手段を有している。中でもデザインから成形の後に作品の表情を決定づける金属の表面処理は伝統的なものから現代及び先進的なものまで様々な素材や化学的な手法でも行われ、作品の表現方法として使用されている。本講義はその表面処理の様々な方法の中から七宝技法を用いてジュエリー作品として制作を行い、素材の特性を理解し、化学・工学的な視点からもアプローチすることにより自己の表現手法の可能性を見いだすことを目的とし授業を行う。 |
| 授業計画 | 1：イントロダクション・課題説明／各種七宝技法説明 技法Ⅰ「透胎七宝」 2：デザイン-地金取り、制作（透し彫り） 3：地金取り、制作（透し彫り） 4：制作（透し彫り） 5：加飾作業／一番差し、一番焼き、二番差し、二番焼き 6：加飾作業／一番差し、一番焼き／仕上げ 技法Ⅱ「銀箔」 7：課題説明／デザイン／地金取り、裏板制作 8：デザイン／地金取り、裏板制作 9：下地釉及びウラ釉施釉／道具制作 10：加飾作業／下地釉：一番差し、一番焼き、二番差し、二番焼き 11：加飾作業／箔貼り、口一篩い 12：加飾作業／箔貼り、口一篩い 13：加飾作業／三番差し、三番焼き、研磨 14：加飾作業／研磨、金具仕上げ 15：講評 |
| 実務経験のある教員 | 作家として制作活動の経験を活かし、より実践的な技法・技術を指導する。 |
| 授業時間外学習 | 授業時間外においても課題の作品制作に取り組み、より完成度の高い作品に仕上げるよう努力する事。 |
| 評価方法 | 作品評価 80%、授業態度 20%の割合で評価。 課題未提出、又は出席日数が 10 回に満たない場合は E 評価となる。 |
| 指導方法 | 講評の授業の中で、それぞれの課題作品について教員が講評を行う。 |
| 使用テキスト | プリントを配布する |
| 参考テキスト・URL | |
| 各自準備物 | 作業着、エスキース帳、筆記用具、カッターナイフ、面相筆 |
| 実習費 | 金属板及び釉薬の一部を自己負担 |
| その他 | ジュエリー・メタルワークコースの学生は履修することが望ましく、またその学生を優先する。 |

| | | | | | |
|------|--------|------|-------|----------|----|
| 科目名称 | メディア演習 | | 授業コード | 20070164 | |
| 担当教員 | 天野 憲一 | | | | |
| 単位数 | 4 | 授業形態 | 演習 | 科目分類 | 選択 |
| 年次 | 3 | 開講年度 | 2023 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | 教職 | | | | |

| | |
|-------------------|--|
| 授業実施方法 | 対面授業 |
| 使用するアプリ等 | |
| 履修制限等 | A生限定 |
| 授業の目的と到達目標 (学習成果) | 1. 写真撮影の基本的技術を理解する。 2. PhotoshopとIllustratorの基礎を学び、作品ポートフォリオの制作スキルを習得する。 3. プレゼンテーション能力を身につける。 |
| 授業計画の概要 | 各自の表現世界を社会に向けてアピールするため、基本的な写真のしくみを理解しデジタルカメラを用いて作品撮影を行う。またポートフォリオ制作に必要な Photoshop と Illustrator の基礎を学び、編集の重要性を確認し、作品ポートフォリオの完成度を高める。デジタルによるプレゼンテーションについて学習する。 |
| 授業計画 | 1:「カメラで光をコントロールする」カメラの仕組みを理解して、実験撮影により露出の違い、見え方の違いを確認する。 2:「ライティングで光をコントロールする」ライティングの違いを理解して、実験撮影を行う。 3:「撮影実習 (立体作品撮影・小品)」立体作品を用いてライティング・撮影実習を行う。 4:「撮影実習 (立体作品撮影・大型)」立体作品を用いてライティング・撮影実習を行う。 5:「撮影実習 (平面作品撮影)」平面作品を用いてライティング・撮影実習を行う。 6:「Photoshop 演習 (基本操作)」Photoshop の基礎知識と基本操作を学ぶ。 7:「Photoshop 演習 (レタッチ)」Photoshop を使用して写真の補正を学ぶ。 8:「Photoshop 演習 (応用)」Photoshop の応用操作を学ぶ。 9:「プレゼンテーション」撮影した写真についてプレゼンテーションを行う。 10:「Illustrator 演習 (基本操作)」Illustrator の基礎知識と基本操作を学ぶ。 11:「Illustrator 演習 (応用)」Illustrator の応用操作を学ぶ。 12:「ポートフォリオ制作 (編集)」編集作業の重要性を学び、ポートフォリオ制作プランを計画する。 13:「ポートフォリオ制作 (デザイン・レイアウト)」デザイン・レイアウトによる違いを理解し、ポートフォリオ制作を行う。 14:「ポートフォリオ制作 (印刷・プリント・PDF)」出力方法 (印刷・プリント・PDF) を学び、ポートフォリオ制作を行う。 15:「ポートフォリオ合評会」ポートフォリオのプレゼンテーションと講評会を行う。 |
| 実務経験のある教員 | |
| 授業時間外学習 | 各自の作品に関連する図録・カタログ・雑誌・web メディア・SNS 等から参考となる資料の閲覧、クリッピングを日常的に行うこと。 |
| 評価方法 | 「課題」「平常点」を 70%、30%の割合で評価する。「平常点」とは「発言等の積極性、理解度」「グループワークにおける貢献度」等。 |
| 指導方法 | 提出されたレポート、課題等を採点し、コメントをつけて返却する。毎回の講義に対しての質問は、教員メールで受け付け、返答する。メールアドレスは初回授業で案内する。 |
| 使用テキスト | テキストは随時配布する。 |
| 参考テキスト・URL | 参考図書:「新ブック・オブ・フォトグラフィ」ジョン・ヘッジコー著 (MPC) |
| 各自準備物 | デジタルカメラ用 SD カード 8GB 以上 USB メモリー (空き容量 16GB 以上) |
| 実習費 | 撮影小道具やプリント紙、ポートフォリオ制作にかかる費用等は、基本的に各自負担とする。 |
| その他 | |